

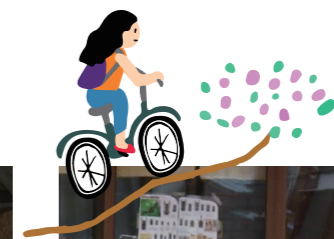
Welcome!

秋田



秋田で農泊ビジネスに取り組んでみよう

先輩移住者にインタビュー



AKITAVISION
秋田県

発行

秋田県農林水産部農山村振興課
〒010-8570 秋田県秋田市山王4丁目1-1
TEL 018-860-1851 FAX 018-860-3815
発行日 2021年9月

©秋田のグリーン・ツーリズム総合情報サイト
「美の国秋田・桃源郷をゆく」



地域とともに、

あなたと一緒に作る

第二のふるさと

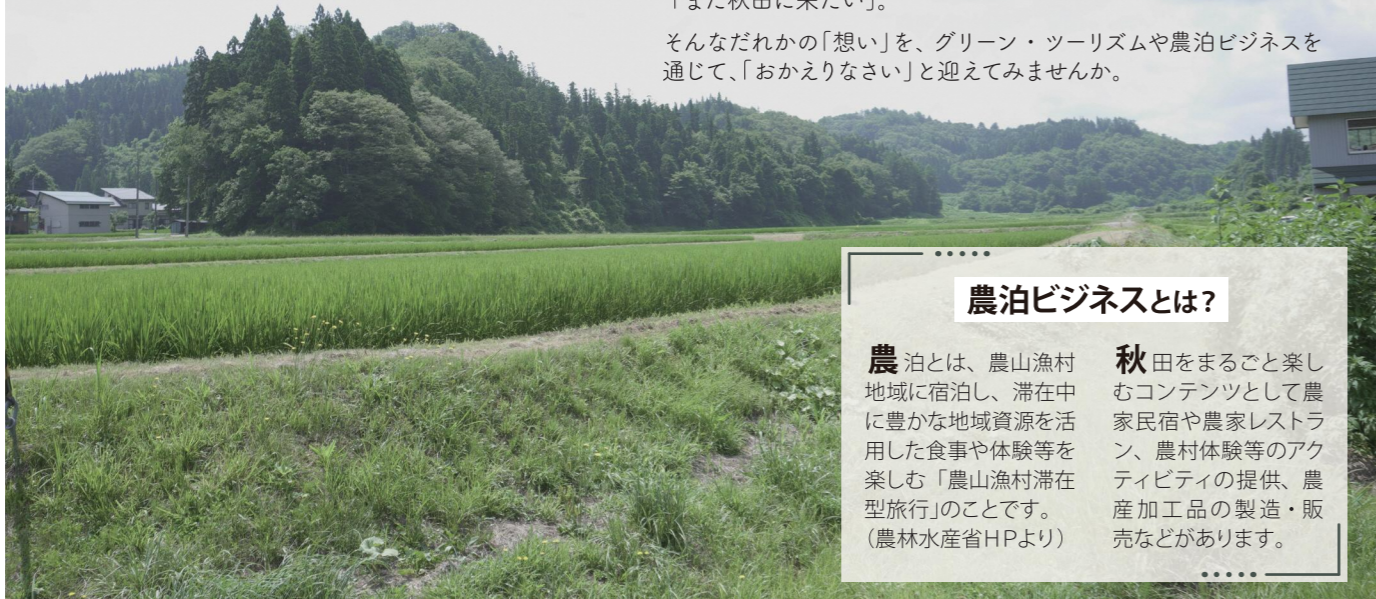
「おかえりなさい」
地域の人と一緒に 来訪者を迎える暮らし はじめてみませんか。

～豊かな自然、魅力的な秋田の人たち～

秋田で農家民宿や農家レストラン等、農泊ビジネスに取り組む人々は、食や交流を通じて地域の魅力を発信しています。そして、来訪者は、豊かな自然の中でそこに住む人々と心の交流を交わして想うのです。

「また秋田にきたい」。

そんなだれかの「想い」を、グリーン・ツーリズムや農泊ビジネスを通じて、「おかえりなさい」と迎えてみませんか。



農泊ビジネスとは？

農泊とは、農山漁村地域に宿泊し、滞在中に豊かな地域資源を活用した食事や体験等を楽しむ「農山漁村滞在型旅行」のことです。(農林水産省HPより)

秋田をまるごと楽しむコンテンツとして農家民宿や農家レストラン、農村体験等のアクティビティの提供、農産加工品の製造・販売などがあります。

農泊ビジネス DE 移住までの3ステップ



知る

本誌で、秋田に移住して農泊ビジネスを実践している先輩たちの事例を参考にしましょう。また、各Webサイトなどで最新情報を集めましょう。



相談

相談窓口やセミナー等に行ってみましょう。関係機関が連携して様々なニーズにお応えします。



体験

移住前に秋田での暮らしを体験してみましょう。冬の暮らしや地域住民との関わりを知ることができ、移住前の不安を解消できます。

INDEX

- | | |
|---------------------------|----------------------------------|
| P03 インタビュー1
農家民宿・産直やしお | P05 インタビュー3
農園りすとらんで herberry |
| P04 インタビュー2
としよ木漏れ日 | P06 インタビュー4
ふみきり野Cafe |

農泊ビジネスでの起業を考えるあなたへ。こちらをチェック!

研修や補助金を活用しよう!

秋田県では、農泊ビジネス(農家民宿、農家レストラン等)の起業による移住・定住を応援しています。

農泊ビジネス起業実践研修 起業・経営にかかる知識習得および実践者の下での実務体験等を実施

農泊ビジネス起業支援補助金 起業する際の施設改修等を支援/補助対象額の1/2以内
上限50万円

※上記は、令和3年度の支援内容です。最新の情報は下記へお問い合わせください。

お問い合わせ 秋田県 農林水産部 農山村振興課 調整・地域活性化班
☎018-860-1851

動画でお伝え!

< YouTube チャンネル「秋田花まるっグリーン・ツーリズム推進協議会」>
農家民宿、農家レストランのオーナーたちの一日を追いながら、開業のきっかけや今の想いを紹介しています。



農家民宿のいちいち
花みずき

動画はこちら



農家レストラン・農家民宿の
いちいち
里山のカフェににぎ

動画はこちら

関連Webサイト



全般

秋田県移住・定住総合ポータルサイト

“秋田暮らし”はじめての一步

<https://www.a-iju.jp/>



Aターンサポートセンター

あきたで暮らそう!

<https://www.furusatokaiki.net/consultation/akita/>



観光

秋田県公式観光サイト

「アキタファン」

<https://akita-fun.jp/>



就農

公益社団法人秋田県農業公社

秋田県新規就農
相談センター

<http://www.ak-agri.or.jp/>



グリーン・ツーリズム

農泊ビジネス

秋田のグリーン・ツーリズム総合情報サイト

美の国秋田・
桃源郷をゆく

<https://www.akita-gt.org/>



interview

01

由利本荘市

農家民宿・産直 やしお

日出雄さんは横手市出身。秋田市出身の真理子さんと結婚し、2人のお子さんに恵まれる。大手家電メーカーの営業マンとして各地を転勤。定年退職後は「田舎で暮らして民宿をやりたい」と考え、2015年3月、夫婦で由利本荘市に移住。

大坂 日出雄さん
真理子さん



教えて!大坂さん!

起業までの process

2014年・東北各地の物件を見て回る

2015年・宮城県仙台市から東由利(由利本荘市)に移住
・農業委員会から農家の認定を受ける
・補助金を活用し、必要設備を購入
・飲食店営業許可取得
・旅館業許可取得

2016年・産直やしお、農家民宿やしお開業



民宿の窓からの風景、特に星空の美しさを感動のもの!

自然豊かな風景に魅せられ 鳥海山の麓に移住

—移住先はどのようにして決めましたか?

定年退職と同時に、田舎暮らしをしながら民宿経営をしたいと考えていたので、定年の3~4年前から妻と一緒に移住先を探し始めました。東北各地をまわって70箇所ほどの物件を見ていたのですが、ある時、偶然ウェブサイトで見つけて下見に来ました。そうしたらもう、理想に近い環境で感動したんです。東西南北に窓があって、気持ちのいい風が入ってきて、景色が良くて、その場で即決しました。物件を決めたのが2014年11月、そして2015年3月に移住しました。

—産直・民宿開業の経緯を教えてください。

移住してまず初めに、夫婦で地域の集落を一軒一軒回ってご挨拶しました。その時、集落の人たちの人柄の良さを感じて、「ここに決め



冬の間、日出雄さんが手作りした木工品。

て良かったな~」と思いました。その後、慣れない畑仕事をしていると通りがかった近所の人たちがノウハウを教えてください、農機具の使い方をはじめ、農作業はほとんど近隣の人たちから教わりました。

時期になると集落の農家さんからたくさん野菜をもらうのですが、この辺りの人たちだけでは食べきれず、「産直を開いてみたら」と勧められたことから、思い切って委託販売方式の産直開業を決めました。

民宿と産直を開業するのに必要な設備や資格について、保健所や消防署、税務署などに出向いてアドバイスをいただき、商工会議所の補助金を活用し、2016年4月に「産直やしお」、6月に「民宿やしお」をオープンしました。

起業を考える方へメッセージを

想いを口に出すこと! そして、必要な情報は、自分から出向いて人に会って話を聞いて集めることが大事です。1人でできない時は、周囲の人の力を借ります。



農家民宿・産直やしお

〒015-0221 由利本荘市東由利館合字白山 66

☎ 050-7788-2643

<産直> 営 4月~11月 8:00~15:00

休 水・木曜日、12月~3月冬季休業

<農家民宿> 完全予約制、冬季休業あり

HP <http://yasio.deci.jp/>



interview

02

大館市

としよ木漏れ日

NEW

三澤 雄太さん
舞さん

夫婦ともに大館市出身。長野県でシステムエンジニアとして働いていた雄太さんと、岩手県の住宅メーカーで働いていた舞さんは、地元大館のイベントで出会い、結婚。長野市で結婚生活をスタートし、2019年に夫婦で大館市に移住。



教えて!三澤さん!

起業までの process

2019年・フリーランス地域おこし協力隊として、長野県長野市から大館市に移住
・コミュニティスペース「としよ木漏れ日」オープン

2020年・「としよ木漏れ日」で住み開き開始

2021年・飲食店営業許可取得
・旅館業許可取得準備中
・農泊施設オープン予定



開放感あふれる「としよ木漏れ日」。飾り棚には様々な本が並ぶ。

生まれ育った大館に戻り 街を活気づけるプレイヤーになりたい

—移住のきっかけを教えてください。

雄太さん 結婚当時は長野市で生活していましたが、「いつか地元に戻ろう」という気持ちが2人ともありました。

舞さん 長野市の善光寺門前町は空き家のリノベーションが盛んで、移住者が増えてどんどん街が変わっていく様子を見て、「自分たちも街を活気づけるプレイヤーになりたい」と思うようになりました。そんな時、東京で開催されたイベントで大館市商工課の方と出会い、大館初のフリーランス地域おこし協力隊に応募して大館に戻り、その想いを実現させよう決めました。

—フリーランス地域おこし協力隊とは、どんな活動ですか?

雄太さん 個人事業主として市の事業を請け負うという、新しいスタイルの地域おこし協力隊です。私たちは、大館市比内町にあるサテライトオフィスのお試し体験に来る企業の誘致・案内をしています。その傍ら、システムエンジニアのスキルを活かしてIT関連の個人事務所を立ち上げ、web制作などの仕事をしています。

舞さん 私は宅地建物取引士の資格を持っていて、空き家に関する取り組みをしたくて空き家を探していたら、吉田松陰が東北遊学の際に泊まった民家が空き家になっていることを知りました。歴史的に価値があり、大家さんの人柄や、空き家になる前の使われ方から、人が集まる要素を持つ建物だと思い、友人と一緒に借りてリノベーションして2019年8月にコミュニティスペース「としよ木漏れ日」をオープンしました。



毎週金曜日の「お茶っ会」には地域の人たちが集まる。

コミュニティスペース & カフェ & 農泊 訪れる人を温かく迎える場所

—「としよ木漏れ日」は、どのような場所ですか?

雄太さん 地域の子どものから高齢者まで、多世代が交流できる「地域のお茶の間」です。毎週金曜日は高齢者が集まる「お茶っ会」、また、不定期で子育て中の方向けの講座「いっくがく教室」やマルシェ、各種イベントを開催しています。2020年8月には、それまで住んでいた賃貸物件から引っ越して「としよ木漏れ日」2階に夫婦で住み始めました。2021年の春から、ヴィーガンのおやつを提供する「キルカスケバト」さんが、毎週土曜日にカフェを営業しています。それに先駆けて、2021年1月に飲食店営業許可を取りました。

—コンセプトについて教えてください。

雄太さん 長野の友人が、自宅の一部をオープンにして地域の人や旅人が出入りする「住み開き」というスタイルを実践していました。「としよ木漏れ日」も、誰でもふらっと立ち寄って地域の人たちと交流できる場所を目指しています。ここを訪れた旅人を地域ぐるみで迎え、交流・体験ができるようにしたいと考えています。

—開業に向けて、どのような準備をしていますか?

雄太さん 2020年に「農泊ビジネス起業実践研修」を受けました。実際に農家民宿に泊まって、ご主人の起業の経緯やこだわりについて話を聞き、とても刺激を受けました。研修の他にも、夫婦で県内各地の農家民宿を視察しています。また、旅館業の許可を取得するため、防火管理者の講習を受講するなどといった準備をしています。

—今後、どのような取り組みをしていきたいですか?

舞さん ダッチオープンできりたんぼ鍋を作ったり、テントサウナを楽しめたり、矢立峠の散策体験ができたり、地元の資源と新しいものを組み合わせて私たちなりのアクティビティを考えていきたいです。

起業を考える方へメッセージを

移住は大きな決断。迷ったら、その理由をロジックとパッション両面から紐解いてみてください。10年先、20年先を見据えて考えて「今行こう」と思ったらGo!



としよ木漏れ日

〒017-0002 大館市白沢字白沢 342

☎ 080-8877-3581

営 10:00~17:00

開放日 毎週金・土・日曜日



三種町

農園りすとらんて herberry

智さんは秋田市出身、真紀子さんは青森県五所川原市出身。ともに首都圏で働いている時に結婚し、3人のお子さんに恵まれた。ITエンジニアだった智さんが55歳の時、「田舎でヤギを飼って生活したい」と夫婦で三種町に移住。

山本 智(さとし)さん
真紀子(まねこ)さん



ヤギと共に暮らし、食を循環させる環境を作りたい

一移住を考えたきっかけを教えてください。

智さん ずっと大企業のITエンジニアとして働いてきたのですが、55歳の時に「都会の生活はもういいかな」と感じ、田舎でヤギを飼って食を循環させる環境を作りたいと考えました。ヤギは自給型の家畜で、草を食べてフンをする→フンを堆肥にして野菜を作る→ヤギが野菜クズを食べてミルクを出す→ミルクでチーズやプリンを作るというように、無駄なく食を循環させてくれます。日本は大量生産・大量消費の時代が長く、どこかで循環型の持続可能な生活にシフトしないといけないのではないかと、という気持ちがありました。

一移住先として三種町を選んだ理由は何でしたか？

智さん 移住前、2年間かけて春・夏・秋・冬に計8回、県内各地を下見したのですが、なかなかコレという土地に巡り会うことができず、最終的に妻が決めたんです。

真紀子さん 仕事を辞める時期が近づいても土地が見つからなくて、大丈夫かなと思っていた時に三種に来て、「ヤギが飼えて景色も良くて、ここがいいんじゃない?」と思いました。

智さん 妻が五所川原出身、私が秋田市出身なので、中間地点となる三種町がちょうど良い位置だったというのも大きいです。

一移住に向けてどのような支援を受けましたか？

智さん 当時、三種町には移住者をサポートするNPOがあり、そのNPOを通じて町の人たちと繋がることができました。そのようなサポートがあったことも、ここを移住先に決めた理由の一つです。今は当時の代表の方から活動を引き継いで任意団体を作り、移住者のサポートを続けています。

教えて!山本さん!

起業までの process

2008年・移住に向けて準備を開始(2年間に8回下見)

2010年・首都圏から三種町に移住

2011年・補助金を活用し店の設備やヤギを購入
・飲食店営業許可を取得
・「農園りすとらんて herberry」オープン



お店のすぐ横の牧場。ヤギの世話に毎日5~6時間かけている。

ヤギのミルクをおすそ分け「自産店消」の農園りすとらんて

一「herberry」開業の経緯と、お店の特徴を教えてください。

智さん 2010年4月に移住して、翌年7月にお店をオープンしました。土地を整備し、不要なものを処分して新しく店舗を建てるのに1年以上かかりました。お店の設備には起業支援制度と農村六起プロジェクト、ヤギの購入には地元元気づくりの補助金を活用しました。

メニューは、自家製野菜や地元の旬の食材を使ったイタリアンです。ヤギのミルクを使ったチーズやプリンも出していますが、本来、ミルクは子ヤギのものなので、子ヤギが離乳した春~秋までの限定メニューとなります。地元の旬の食材を使い、キッシュにミズを入れたり、じゅんさいのティラミスを作ったり新しい工夫をしています。野菜の旬は短いので、2週間くらいでメニューが変わります。

真紀子さん 店の前の農園にはハーブやベリーを植えています。もっと手をかけてしっかり収穫したいんですけど、今はヤギの世話に追われて手が回らなくて、植えっぱなしです(笑)

一今後、どのようなことに取り組んでいきたいですか？

智さん これまでの10年間は、ヤギのいる循環型飲食店 herberry の土台作りに専念してきました。これからは、まだあまり知られていない三種町の食材や料理法、秋田の良さを外に発信していきたいと考えています。そのために、まずECサイトを立ち上げました。さらに、店の一角にスタジオキッチンを作り、そこから動画配信による料理教室をしていきたいと考えています。



ランチセット(1,980円)と、ヤギミルクプリン(280円)

農園りすとらんて herberry

〒018-2406 山本郡三種町大口字西山根 170

☎ 0185-85-3232

(営) ランチ・カフェ 11:00~16:00(ランチ L.O.14:30)
ディナー 18:30~(※予約制)

(休) 不定休

HP <https://www.herberry.biz/>



北秋田市

ふみきり野 Cafe

加藤 由美子さん

大仙市出身。秋田市出身のご主人と結婚し、国内外を転動して回る。飼料会社の牧場に勤務していたご主人と一緒に「秋田に戻って自分の農場を持ちたい」と考え、1999年、4歳・2歳のお子さんを連れて一家で北秋田市(旧合川町)に移住。



教えて!加藤さん!

起業までの process

1999年・移住にあたり県や農業公社に相談
・福島県いわき市から北秋田市に移住

2000年・個人の専従農業者として起業(牛・比内地鶏・花)

2009年・(有)あけぼの農園を譲り受ける

2013年・保健所に相談、各種許可を取得
・「ふみきり野 cafe」オープン



カフェの入り口脇で、羊たちがお出迎え。

「秋田に戻り、自分の農場を持ちたい」夫婦で一から農業をスタート!

一移住するにあたって、どこに相談しましたか？

移住を考え始めた頃は福島県いわき市に住んでいたのですが、電話で秋田県に「移住して農業を始めたい」と問い合わせました。当時はそのような人を受け入れる窓口がほとんどなく、農業法人を紹介されてしまっただけで「農家に就職するのではなく、自分で農業を始めたいんです」と説明するところからのスタートでした。脱サラして農業を始める場合は、「就農」ではなく「新規参入」になるんですね。何度かやり取りした後、農業公社を紹介してもらって、やっと移住先の検討へと話が進みました。ここ(旧合川町)に決めたのは、農業の新規参入者を受け入れる窓口やサポート体制があったからです。

一どのように農業を始めましたか？

1999年8月に移住してから、半年かけて準備をしました。農業に必要な土地を借りる仲介を役場がして下さったり、私たちが立てた事業計画に地域振興局がアドバイスして下さったりといったサポートが有り難かったです。次の年の4月、農業を始めました。主人は飼料会社の牧場で働いていたので牛に詳しく、最初は牛と比内地鶏を飼いました。でも、牛は収支を軌道に乗せるのが難しく、1年でやめました。比内地鶏は好調で、2000羽からスタートして、5年計画で1万羽まで増やしました。私は、実家が農家なので、実家から技術指導を受けながら花の苗を作り販売してきました。

花屋+羊+カフェ 農家とお客さんを繋ぐ新しい拠点

一カフェをオープンしようと思ったきっかけを教えてください。

2007年に比内地鶏の偽装問題が起きて減羽となり、その減った分の収入を確保するため、近所の加工所を借りて比内地鶏の卵を

使ったシフォンケーキを作り始めました。イベントなどで販売したところ、とても好評で、「花屋+カフェ」というスタイルのお店をやってみたいと考えました。追い風となったのは、所有者が農業を続けられなくなった(有)あけぼの農園を譲り受けたことです。個人から法人になることで、六次産業化がしやすくなりました。同じ頃、新しく食肉用の羊を飼い始めました。「こんなことをしたい」という内容を保健所に相談して、飲食店営業、食肉販売業、菓子製造業の許可を取りました。



オープンガーデンのすぐ横に秋田内陸線の踏切があります。

一「ふみきり野カフェ」の魅力はどんなところですか？

“お母さんが子どもに食べさせたいお菓子・料理”がコンセプトで、着色料や香料といった添加物をほとんど使っていません。ランチは、旬の野菜を味わえる優しい味のメニューをワンプレートで提供しています。また、農業を使わずに育てた花を使って、お冷のコップに花氷を入れたり、プレートの料理に花を添えたりといった、見て楽しい工夫もお客様に喜ばれています。

一カフェをオープンして良かったと感じることはありますか？

これまで農業に専念してきましたが、カフェができてからは、花を買いに来た方がカフェで食事をして行ったり、比内地鶏の卵を使ったシフォンケーキを食べたり、それまでバラバラだったものが結びついた気がします。長男が農業を、長女がお菓子作りを手伝ってくれていて、家族もカフェを中心に繋がっています。

一今後、やりたいことはありますか？

今は人手が足りなくてできないのですが、体験メニューを増やしたり、花を巡るフラワーツーリズムをいつかやりたいです。

起業を考える方へメッセージを

一度しかない人生、やりたいことがあったらぜひ挑戦してください。三種町に移住を希望される方は、私たちが全面的にサポートしますよ!



起業を考える方へメッセージを

サポート機関をうまく利用して、得意分野で活躍できる機会を増やしてみてください。秋田県にはライバルが少ないので、新しいことや珍しいことをするチャンスです!



ふみきり野 Cafe

〒018-4211 北秋田市川井字中谷地 121

☎ 0186-78-3105

(営) 10:30~16:00(ランチ 11:30~14:00)

(休) 日曜日 ※冬季休業あり

